



イベント
フォトギャラリー

わったー まちの話題



7月1日・22日 きれいなヒマワリ咲きますように



昨年に続き、西原さわふじマルシェ前の道路用地にヒマワリの苗木を植えるフラワーガーデンプロジェクトが行われました。この活動は西原さわふじマルシェを盛り上げるため西原町生活研究会とJAおきなわ西原青壮年部、西原町職員労働組合の提案から実現しています。

7月1日に2,500個の苗木ポット作りと用地周囲の草刈りが行われ、同22日に苗植えが行われました。ヒマワリは9月が見ごろです！

7月14日 小波津川がじょーとーに！



「道路、河川愛護の心」を高めることを目的に、「第42回西原町道路・河川愛護デー」(主催 西原町、共催 西原町商工会、西原町シルバー人材センター)が実施されました。

猛暑の中60団体、156人が参加し、町道内間小那覇線と小波津川の草刈りやごみ拾いなど清掃活動を行いました。

みなさんのご協力により、清掃後はとてもきれいになったりん！ありがとうございました！



7月20日・29日 浮いて待て！ 命を守る水難防止講座！



水難事故から命を守るため、20日に町教職員向け、29日に町内児童生徒向けに[UITEMATE@沖縄](中村翔代表)による

「着衣泳」について学ぶ水難防止講座が開かれました。中村代表らは「水難事故の多くは水に入る予定がない場合に起きる。人は水面上に体の2%が出るので、それを口や鼻に集中させることで呼吸しながら浮くことができる」と説明し、参加者は服を着たまま水面に浮く練習をしました。

最後は、通報してから消防が現場に駆け付ける平均時間である「6分間」浮き続けられるかに挑戦しました。

参加した西原東中学校の高江洲優真先生は「水難事故の防止のためプールの授業で子どもたちに教えていきたい」と話しました。



胸の上に空のペットボトルを持ち町教職員が着衣泳を実践する様子

7月24日 ランニングしながら 町内パトロール



ランニングしながら地域内をパトロールするボランティアグループ「パトラン西原」(佐藤礼子代表)が西原町役場を訪れました。

同グループは昨年の11月から週2回、防犯パトロールを兼ねてランニングをする活動を開始。ランニング中に街灯切れや道路の危険箇所、不法投棄などをチェックし役場に連絡したり、街中やビーチのごみ拾い、子どもや高齢者に声かけをするなど、地域の環境美化や防犯に貢献しています。

佐藤代表は「街灯切れで暗くて危ない道や道路へのごみ投棄も多いので、町には改善に向けた協力をお願いしたい。またパトラン西原メンバー募集中です！」と話しました。

お問い合わせ 佐藤代表 ☎090-8835-1721

7月28日・8月10日 親子で戦争遺跡を巡る平和バスツアー



平和事業の一環として戦争の記憶や体験を次世代に伝承するため、親子で町内外の戦災跡地を訪ね、戦争の悲惨さと平和の尊さについて学習する親子平和バスツアーを開催しました。ツアーは昨年夕陽の広場に建立した「月桃」の歌碑からスタートし、西原の塔など町内の戦跡を巡ったのち、糸満市に移り沖縄陸軍病院之塔、魂魄之塔を含む計11か所の戦跡を訪れました。

ガイドの池間一武さん(ニシバル歴史の会兼沖縄平和歴史ガイド)より戦跡についての説明や戦争体験者の証言が語られ、参加した親子らは耳を傾け、平和への思いを胸に刻みました。

巡回コース 夕陽の広場→西原の塔・旧西原村役場壕跡→弾痕の残る石壁→九六式一五榴弾砲→白梅之塔→バックナー中尉慰霊碑→沖縄陸軍病院之塔→ひめゆり学徒隊散華の碑(荒崎海岸)→魂魄之塔→平和記念公園(全学徒の碑)

8月10日 ゲームの世界で内間御殿を創作！



西原町の子ども向けにプログラミング教室を開いているボランティアクラブ「CoderDojo西原」(砂辺孝夫代表)の子どもたちが、人気ゲーム「マインクラフト」を使い内間御殿とその周辺の街並みを制作し、成果報告のため役場を訪れました。

子どもたちは約半年かけて制作したゲームの世界で内間御殿をはじめウーフルや西原温泉まで再現。また、中には未来の西原としてゆいれールまで制作されていました。

琉球大学付属小学校5年の嘉数康希さんは「東江御殿の屋根の赤瓦を再現するのが難しかった。内間御殿に子どもが行っても楽しめるように地下空間も作った」と話しました。

8月11日・12日 西原町かけっこ教室 青空の下はーえーごんごん！



西原町かけっこ教室が、西原町民陸上競技場で4年ぶりに開催されました。砂川力也さん(琉球大学教育学部保健体育講座准教授)と琉球大学陸上部員7名の指導の下、町内の小学生が基本動作を学びながら、楽しく元気に青空の下を走り抜ける賑やかな教室となりました。

教室初日には、管理栄養士の町田貴和子さん(琉球大学農学部亜熱帯資源科学科健康栄養科学コース技術職員)による保護者向け栄養講座も開催。スポーツをする成長期の児童に必要な栄養補給を説明し、参加した保護者は耳を傾けていました。

企業の皆さま飲料の提供ありがとうございます。

(株)沖縄伊藤園より麦茶 沖縄サンポッカ(株)よりグアバ茶 沖縄コカ・コーラボトリング(株)よりアクエリアス

8月14日 平安名はなさん なぎなた団体・演技で全国制覇



8月に北海道で行われた全国高等学校総合体育大会において、首里高等学校の平安名はなさん(西原東中学校出身)がなぎなたの団体と演技の部で全国制覇し、優勝報告のため役場を訪れました。なぎなた団体においては、昨年に続く2連覇となります。

平安名さんは「団体は2連覇がかかり、県代表としてのプレッシャーが大きかった。でもこのチームなら優勝できると信じていた。優勝した時は、嬉しさで号泣しました」と当時の心境を笑顔で話しました。

崎原盛秀町長は「プレッシャーに打ち勝ち、優勝することができ素晴らしい。町民の誇りです」と称賛しました。



小波津七年まゐる村遊び

10月1日開催

村遊びは、村の神々に五穀豊穡を感謝し豊年を祈願するため、アシビナー(遊び庭)などで演じられる奉納舞踊で、旧暦の八月十五日前後に催されます。その日は、長者の家主、ミルク加那志、獅子などの来訪神を招来し、村人たちによる村遊びが華やかに執り行われます。

演目は、人間生活の中で最も理想的な姿である福祿寿の徳を兼ね備えた長者の大王が始まります。続いて狂言(ちようぎん)、ヤナムン(悪霊)を百獣の王である獅子の力によって祓う獅子舞、常に若々しい生命力を観客に与える若衆舞、薩摩流れで江戸の匂いを充満させた二才踊、勇壮な棒踊、沖縄古来の信仰を首里親国の士族の姿で登場させた女踊、明治以降に作られた劇の狂言、最後に英雄らの興亡をドラマ化した組踊を演じて終わります。

村遊びを催しているのは、幸地、棚原、翁長、小那覇、我謝、小波津などで、特に今年は、小波津で七年まゐる村遊びが開催される年にあたるため、小波津の村遊びについて紹介します。

もともと小波津の村遊びは、すべて男性が行い、様々な踊りや組踊、狂言、獅子舞などが俄か造りの舞台で演じられていました。村遊びを開催するのは膨大な費用を費やしたので、明治末期ごろから七年まゐる(六年越し)で開催され



納山で出会う、そこでい、忠臣の仇を討つ物語で、忠臣の兼本大主と山城の比屋父子の立ち回りや踊り、長台詞(ながげりふ)の掛け合いなどが



顔負けの演技で、「小波津音頭」は、区民が創作し、「赤田花風節」は、同区に伝わる歌と踊りがあり、また、棒獅子舞は、鋭い眼光と低い姿勢で邪気を払う演舞になっており、小波津独特の伝統芸能が披露されます。



は、十月一日です。是非、この機会に地域の伝統行事に触れては

いかでしようか。(参考文献)「沖縄大百科事典」(西原町史)「小波津誌」 ※各地域の村遊び開催については、各自治会にお問い合わせ下さい。

お問い合わせ 文化課 文化財係 ☎944-4998